

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771500277		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホーム宝達の郷		
所在地	石川県羽咋郡宝達志水町今浜148番1		
自己評価作成日	令和8年3月9日	評価結果市町村受理日	令和8年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・「自由に・ゆったり・ありのままに」生活を送っていただきます</p> <p>・一人ひとりの「その人らしさ」を尊重します</p> <p>・「第二の我が家(セカンドベスト)」を目指します</p> <p>という理念を活かし、ご縁のあった利用者さんに幸せな時間を提供できるように日々努力しています。食事前には全員で体操や唄を歌い、お花見や夏祭り、バーベキュー等色々な年間行事を通して、楽しいのびのびと生活していただいております。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ホームが第二の我が家(要約)」に職員が目指すべき指針を示し、利用者個々の症状や能力に応じながら、理念の具体化具現化に日々取り組んでいる。</p> <p>・介護計画は「その人らしさ」を重視し、利用者にとって今必要な支援には具体的に何をすればよいかを端的に示し、職員誰もがいつでも確認できるようタブレットにも表記して、ケアサービスの統一性と実効性を高めている。</p> <p>・依然続くコロナ禍でも、家族には利用者との感染対策を講じた面会や個別外出を推奨し、スナップ写真を毎月送付し年賀状には写真に加え可能な方には直筆コメントも添え、利用者には正月は全職員が自前の一品を持ち寄り1人用重箱に盛るお節料理で始まり、初詣、節分、雑祭り、花見、土間打ち中庭でのバーベキューや流しそうめん、夏祭り、紅葉狩り、クリスマス等々、毎月何かしらの行事を開催し、不自由さを感じさせないよう取り組んでいる。</p> <p>・職員には業務効率化と負担軽減を目的に、タブレット使用による情報共有や適正管理、事情に応じた勤務体制や時間調整、有給休暇の促進や代表者抜きのグループアプリに、初任給アップや抜擢人事、資格取得支援等により、働きやすい環境作りとともに、なにより利用者にとって、第二の家族の一員となれるよう取り組んでいる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人バリアフリー総合研究所		
所在地	石川県白山市みずほ1丁目1番地3		
訪問調査日	令和8年3月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
61	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	グループホーム宝達の郷(たんぼぼユニット)地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月行われるユニット会議を始める前に全員で理念を唱和することで理念を共有し実践につなげている。	理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ここが第二の我が家(要約)」に、ホームとしてのあるべき姿勢を示し、能登地震や続くコロナ禍であっても、利用者が望む暮らしぶりとなるよう症状に沿った支援を念頭に、会議前の理念唱和や日々関わりの中で都度省みて、理念の具現化・具体化に向け取り組んでいる。今年度はさらに外出やホーム行事を増やし充実化をさせて、利用者の笑顔を増やしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて区長との馴染みとなった事でより区の催し物の招待をより受けようになり町の行事に参加しやすくなった。	運営推進会議を通じホームの実情への理解が深まっており、新区長から初詣や盆踊り、秋祭りなど、利用者が楽しめる行事を案内され、そのお言葉に甘えさせて頂いている。ほか、感染防止に留意しながら敬老会参加やホーム玄関前での獅子舞披露、また元自治体職員のホーム職員が役員の老人会主催の日舞鑑賞に今年も招かれ、日頃もまた、あえて町の店から美味しいパンや焼き菓子の購入を心がけるなど、事業所として日常的に利用者が地域と馴染めるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地震で被災された方の受け入れや虐待を受けた方の受け入れをした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で町営施設にドライブに行く事を報告した際に施設の状況をその場で確認してくれてドライブの予定をスムーズに立てる事が出来た。	会議は隔月に、家族代表、町社協会長の新区長、自治体・包括職員の構成で、近隣同法人事業所と時間差で開催している。ホームから入居状況、活動内容・予定等の運営状況を報告し、意見や助言・提案等を頂いている。新区長からは多数の行事案内を、自治体担当職員からは町内施設を利用する際のご協力など、また家族代表が抱えている不安や疑問も忌憚なく直接お聴き頂いて、今後のサービスに活かさせて頂いている。議事録ファイルは玄関に常置して公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町より虐待案件で受け入れを依頼され緊急入居の受け入れを行った。	自治体担当課には、運営推進会議にて運営状況や実情を伝えているとともに、毎月の入退去報告や介護認定更新など、制度・法令順守に努め適正な協力関係維持に努めている。今年度は担当課からの依頼でDV被害の方の受け入れもあり、近所の方の訪問面会では明るくなられたとの感想を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議で話し合いの場を持ち落ち着きのない利用者に対して内服に頼らずケアで対応する努力をしている。	身体拘束の正しい理解は、身体拘束等適正化委員会や研修・勉強会、職員会議等を通じて省みる機会を設け、その活動は運営推進会議でも報告している。能登地震被災の利用者の中には強い帰宅願望の方がおり、何度も関わることにより、不穏行動は孤独や疎外感を感じられた時とわかり、服薬調整の検討もあったが、現在は一概に薬剤調整には頼らず、自分達のケアで安心感を持って頂けるよう皆で取り組んでいる。日中の玄関施錠も変わらずしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前例がないこともあり、個々で理解出来ている職員もいるが、全ての職員の理解は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等ではホームの様子を伝えるよう努めその際に意見や要望を聞き取るようにしている。	家族から入居前の暮らしぶりをお聴きしたり、利用者に代わり家族に思いをお伝したこともあるなど、個々の事情に応じた支援に取り組んでいる。代表者と担当職員が毎月送付しているスナップ写真も好評で、年賀状には本人写真と可能であれば直筆コメントも載せてる。面会も今はマスク着用で玄関ホールでお願いしており、頻りに訪問頂く地元家族も多く、今年も農家の家族から田休みと稲刈り終了時とお彼岸の年4回、大量のおはぎの差し入れを頂いている。今年度は介護度が進み、主食がミキサー食となり特養施設に移行も可能となったが、本人の希望であえてこのまま入居継続となった利用者もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも話し合いができる関係性を築き職員の提案に迅速に対応するよう心掛けている。	毎月のユニット会議には、代表者、管理者、元自治体職員に休日職員も含めた全職員が参加し、全利用者の現状把握や行事企画等を検討・協議し、代表者がいることで即決性もあり、職員からの意見や提案が反映しやすい環境となっている。勤務体制や適正労働時間の調整、IT化した生活記録や三則表、有給休暇の活用促進、代表者抜きのグループアプリ導入に、初任給アップや完全調理品の導入、介護福祉士等の資格取得支援に若い職員の抜擢人事など、働きやすい環境や業務効率化に取り組んでおり、今は有資格者や即戦力人材も増え、むしろ緊張感の欠如や馴れ合いにならぬよう気の引き締めを心掛け、またいくら知識や技術があっても、介護職として最も必要なことは何かを理解して頂けるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの健康状態や生活環境に応じたシフトや労働時間の調整等を行い働きやすい環境作りに務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士取得を後押し研修を受けて若い世代を主任に据えた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン等で常に新しい情報を取り入れられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくり	ご本人の要望を聞きだし個々の思いに合わせられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時よりご家族のご要望を把握し不安を取り除くよう努めている。またご家族の事情に応じ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の望む生活を見極め病院や担当ケアマネ等と密に連絡を取り合い連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯もの干しや片付け、食事の下膳や洗い物等、利用者が積極的に行っている。一方的に介助する事なくコミュニケーションを取りながら出来る事が増えるよう関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの様子を感じてもらうためにスナップ写真を送付している。利用者様の様子に変化があればその都度連絡しご家族と共に支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホーム押水に入居中の利用者に会いたいと事あるごとに要望があるため押水と連絡を取り合っており行き来している。	そもそも入居者が地元で生まれ育った方が多く、家族、親族以外の来訪者も頻繁で、今は、近隣の同法人グループホームに入居している同集落にいた方に定期的に会いに行っている方をはじめ、季節毎に親友と一緒にランチを食べに行く方、受診時は毎回ご息女さんとランチを食べに行き大好きなお酒も飲んで来られる方、美容師のご息女が毎月カットやパーマをかけてもらい、入浴後は自身でブローされ綺麗を保たれている方などがいる。最近の傾向では外出の際は食事と一緒にしてくる方が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんを子供だと思ってお世話してくれる方にはスタッフ見守りの元危険のない範囲でお互いに支え合う環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用されていた方が亡くなった後、連れ合いの方や親戚の方の入居希望がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで行ってきた事は出来るだけ継続できるように努めている。また担当職員を中心に意向の把握に努めユニット会議等で全職員に共有している。	全利用者に介護支援や症状管理、家族窓口等の担当職員を配しているが、日頃は全員が全利用者に関わり、利用者もまたしたい事や嫌な事を気軽に口にする方が多く、ユニット会議等で情報共有を図り、把握困難な方には普段の関わりで表情や仕草から気持ちの把握に努め、本人本位のケアとなるよう努めている。洗濯物干しやたたみ、料理盛り付け、掃除等をはじめ、折り紙好きな方には元保育士職員が折り方を教え、塗り絵好きな方には下絵を差し上げ、入浴後は自身でフローされる方には洗面台に椅子を用意し、携帯電話を持参している方が操作を忘れた時はお教えし、充電管理させて頂いているなど、それぞれ個性ある活きた暮らしぶりを支援させて頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また居宅のケアマネジャー、サービス事業所等から情報収集し、出来る限り経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを大切に、ご本人のしたい事やできる事を本人のペースで行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議では担当職員を中心に話し合う機会を設けており介護計画においても担当職員の思いを反映させている。	計画は「その人らしさ」を重視し、担当職員またはケアマネが毎月作成のモニタリング結果と本人やヒヤリングシートに書かれた家族の気持ちも反映させ、健康維持や本人がしたい事の実現に向けた支援を具現化して、その表記も本人・家族はもとより職員誰もが具体的に何をすればよいかを端的に示す表現で、ケアマネ2名が担当ユニット分を作成し、また職員がいつでも確認できるようタブレットにも表記している。今年度は、目が不自由でも自分でできることは自分でする生活を具体的に立案し、洗顔や口腔ケアは自分でされている計画事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録のための時間を確保全員が周知できるよう情報共有に努めている。また毎朝当日勤務者全員で朝礼を行い利用者様一人ひとりの状態把握を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が町外在住の方が増え受診や役場の同行の依頼があり対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今浜老人会の三味線の会に招待され全員参加できた。またホーム前で行われる町主催の花火大会や町の祭礼や初詣なども楽しむことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医をそのまま継続していただいている。月に一度の訪問診療の際はスムーズに診察ができるよう事前にバイタル測定と体調について報告している。また個別で受診する際は病状説明や予約の手配など行っている。	受診は、ホーム協力医療機関には毎月訪問診療の町立病院と歯科医院のほか、入居前からの利用者個別の医療機関の訪問診療があり、内科以外の外来受診は基本家族付き添いだが、精神的症状や家族の都合など必要に応じて職員が連れ添い近況を伝えるケースもあり、救急搬送時にはホームに戻るまでを付き添っている。看護師職員もおり、訪問診療の際は事前のバイタルチェックや、診察時の体調や症状説明、生活記録や三則表の映像やデータのグラフ化提供に、スマホ送信も可能。主治医と直接電話でやり取りをして眠前薬を導入した事例もあるなど、適切な医療支援体制を充実させている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との専用のノートを作成し質問や依頼を記載して指示を仰ぎ、緊急時にはメールや電話でやり取りしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時した際は情提供書で情報交換し、気になる事があれば何でも気軽に電話し合える関係性を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に合わせて一日のリズムを作り変化があればご家族に随時連絡している。食事形態にも配慮し安心・安全に過ごせるよう努めている。	重度化や終末期に向けてホームとしてできることや方針は入居時に説明し、食事摂取量の減少など日常生活で重度化兆候が見られれば、家族に改めて診察をお願いし、診断結果に応じて歩行器や車椅子、診療やケアに適する3モーターベッドに変更等々、ホームでできる支援を改めて伝えるとともに、このまま入居継続や提携町立病院や特養施設へ移行など、本人・家族の意向を優先し納得の行く終焉を支援している。これまでギリギリまでホームで過ごされ入院されるケースが多く、トイレでの排泄に拘る方を4人がかりで支援したり、居室を玄関横の事務室に変更して最後を見送った事例もあるなど、本人・家族に寄り添う対応に取り組んでおり、今年度は本人の要望で引き続き支援させて頂いてる方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防による救急救命の勉強会に職員全員が参加し緊急時に対応できるよう務めており今年度も計画している。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	グループラインや連絡網を用いいち早く情報共有できるよう体制作りしている。	窒息や転倒予防など症例別の対応マニュアルを備え、「ヒヤリハット」や「安全レポート」はタブレット管理をし、会議等でデータ化した検討や協議をすることで未然予防や再発防止につなげている。消防署員による救急救命講習も開催し、近隣同法人グループホームと合同で看護師職員による実践研修も、救急搬送・感染症対応・火事等の現実的緊急対応手順を見直す目的で、年間計画を立てて実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	提携病院や入居前のかかりつけ病院にも訪問診療に来ていただいている。他に気になることがあれば些細な事でも相談し対応している。	協力医療機関には毎月訪問診療をして頂いている提携町立病院と歯科医院のほか、利用者個別の入居前からかかりつけ医院の訪問診療もあり、また、これまで重度化や終末期利用者の受け入れ実績のある近郊の福祉施設とは、コロナ禍でここ数年は未開催だが研修・勉強会等に参加する交流もある。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制は変わらず。緊急時の連絡や通報は管理者、代表に連絡し家族対応は管理者が行っている。搬送の際は社用車で対応するようになった。	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制で、緊急時は24時間対応の提携町立病院や救急通報とともに、家族、管理者、元自治体非常勤職員、代表者に連絡する手順で、救急搬送時は社用車で同行する体制となっている。夜間業務もタブレット入力にて効率化を図り、夜勤専門職員も有資格者が多く、今年度は夜間頻尿の方に人感センサーの導入とともに主治医と看護師職員の監修で、副作用が少ない眠剤処方と服薬時間の調整で、利用者の安眠に取り組んでいる。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政広報のハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網を整備している。	自治体ハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網等を備え、通年、ホーム独自で年2回防災業者の協力のもと毎日中・夜間・火元を変え、天候や気温が良ければ利用者も戸外退避し、通報操作確認や消火訓練を実施している。能登半島地震では、地区避難所では利用者対応が困難とし、近郊居住の職員も駆け付け、近隣同法人グループホームに社用車で避難したが、時間効率から職員自家用車の活用も検討するなど、改めて被災対策を見直す機会になっており、現在、断水を想定して井戸を掘る計画も検討している。	方針通り、被災時の早急な避難手順や断水を想定した対策、また避難訓練に消防署員の立ち合いなど、さらなる災害対策強化に取り組まれることを期待したい。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	ライフラインや関係機関等の連絡先リストとともに、パン等の非常食、保存水等の備蓄品の3日分相当を(消費期限を含む)リスト化管理し、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯の防災品も整備している。	ライフライン等の連絡先リストとともに、消費期限を含むリスト化管理をした職員分を含む3日分のパン等の非常食や保存水等の備蓄品は、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯等の防災品や防護服やマスク、フェースマスク、キャップ等の感染対策品とともに持ち出しやすいよう玄関ホールの収納戸棚に一括保管しており、今年度は、断水を想定して大量のポリタンクと飲料水を追加補充している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初任者研修を担当しているケアマネジャーにユニット会議の際に研修を行ってもらい対応について勉強している。	年間研修計画で「接遇」は毎年の必須であり、今年度からは初任者研修講師もしているケアマネが担当となり、ユニット会議の際に改めて基本的姿勢や自らを省みる機会となっている。現在、起床後はお茶をすすって朝刊を読む習慣の方がおれば、午前中から昼食後までずっと読み続ける方もおり、洗い終えた洗濯物を見たらすぐ干そうとする方や数えきれない程たくさん手伝ってくれる方には、必ずお礼を言葉で伝え、途中で分からなくなったり不十分な時はそばで励すも気付かれぬよう後で直したり、毎日自主的に小一時間ほど歩行練習に取り組む全盲の方もいる。共同生活の中で、「その人らしさ」を大切に、その症状の理解と個性・尊厳を護るケアに取り組んでいる。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望、要望を伝えにくる方にはその都度対応している。また伝えられない方には行動やしぐさで本人の思いをくみ取るように努めている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望に沿い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持っている洋服を把握しコーディネート等のアドバイスをしたり清潔感のある衣服が保てるよう支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付けを利用者と共に行っている。行事食の際には職員も共に利用者のテーブルに着き皆で楽しく食事している。	普段の食事は、チルド・冷凍の完全調理品で、食品の安全性のもと味とともに栄養管理がなされ、刻みやとろみは、別途にセットして提供しているものの、行事食も豊富で、今年も職員手作りの一品ずつ持ちよりの1人用重箱お節から始まり、節分は三種細巻といなり寿司、中庭で高級牛肉バーベキューと流し素麺、敬老の日は恒例の握り寿司、紅葉狩りは盛り沢山の仕出し弁当持参で繰り出している。今年度は、本人の希望で重度化になっても入居継続されている無類の麺好きの方が、誕生日にラーメンをリクエストされ、あえてミキサー食にはせず、原形のまま麺を短く切って恐る恐る提供したところ完食され、本人も皆も喜んだこともあった。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方には摂取量に応じた盛り付けをすることで完食できるようになった。お茶、コーヒーなど要望に応じて提供している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で行える方には声掛けしている。介助が必要であれば毎食後用途に応じたブラシで口腔ケアを行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の行動を見て誘導しトイレでの排泄に心掛けている。夜間帯においてはセンサーを使用し本人の動きを察知しトイレで排泄できるよう勤めている。また夜間帯でもトイレに行くことができるよう薬剤調整や内服時間の調整を行った。	排泄管理も、タブレットに時間、尿・便、性状、パット・オムツ交換を入力し、症状によっては映像も残し、適切なパット・紙パンツ、誘導タイミングや仕方につなげている。正常な習慣維持に向け、おやつタイムは、おやつを選定とともにコーヒー、カルピス、ココア、紅茶、牛乳、乳酸菌飲料等から選んでもらうなど、確実な水分摂取につなげ、服薬にはあまり頼らない本来の能力を引き出す支援に取り組んでいる。今年度は、夜間頻尿の方向けに、適切な眠剤服用提供時間を何度も何度も試し、ようやく日中の適切時間帯に見当がついた事例もある。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今年度は夜間の排泄管理に見守りセンサーを試すも最終的には人感センサーを導入し、薬剤調整も主治医と看護師職員の監修で副作用が少ない眠剤の服薬時間の調整で安眠に取り組んでいる。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂を希望している利用者に対し要望が叶えられるよう入浴日を検討した。また外出される利用者さんには出かける当日の朝に入浴してもらい気持ちよく出かけられるよう支援している。風呂好きな利用者にはできる限り気持ちよく入浴できるよう時間を見ながら入って頂いている。	入浴は、その日の職員シフトに合わせて毎日午前中に、週2回以上を目安にご利用頂いており、入浴剤のほか家族やご近所からの差し入れで柚子や菖蒲湯もあり、タオルや洗髪剤、石鹸等は全利用者分を個別に配備している。嫌がる方は少なく、受診や外出の前日や当日にお勧めしたり、一番風呂は風呂好きな方が多く重なったり、時に仲良しの方が入浴されているところに入り込まれ、同意のもと一緒にそのまま入って頂くこともある。また1年を通してすべてシャワー浴の方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう部屋の温度や湿度、エアコンの風向きに配慮している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当スタッフは薬の飲み合わせや飲み方を把握し他スタッフに共有している。上手く飲めない利用者にはスプーンを使って確実に飲める様工夫している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援	75インチの大型テレビを導入したことで全員で集まり体操したり歌詞付きの歌番組が見られるようになり喜ばれている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩はもちろんちょっとした買い物にも出かけ戸外に出かける機会を増やしている。今年は普段歩行器を使用している方でも初詣に行くことができ大変良かった。	コロナ禍で断念していた介護タクシーワゴン車を借りて皆で外食も兼ねる外出企画は昨年度から復活しており、今年も地元の花見や紅葉狩り名所に繰り出している。また日常でも散歩や気晴らしドライブ、食材や日用品購入にも利用者を同伴しており、また誕生日に食べたいものや行きたい所をお聞きして出かけ、初詣は行きたい利用者が何名もいたため、職員2名利用者2名で何度も往復して気持ち新たに新年を迎えている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を自由に所持している。買い物に同行した際はご本人に支払いして頂いている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方が増えてきたが紛失したり使い方が分からなくなる事があるためその都度一緒に探したり指導している。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにホールにて飾りつけを行い賑わいのある雰囲気作りをしている。	リビングから宝達山が一望でき、採光良く、除湿・加湿・温度管理に、窓開け換気も天候次第で全開や少し開けなどほぼ1日中実施しているなど、依然、消毒清掃も徹底した感染対策を講じている。装飾は季節ごとに利用者として作り、玄関広間とユニット出入口には本格的な生花の飾り付けをして、中庭では高級牛肉バーベキューや流しそうめん、夏祭りはやぐらを組んでカラオケ大会、10月の花火大会もここで観覧し、クリスマスはユニット対抗風船バレー大会を開催するなど、毎月何かしらの行事企画を開催している。今年も法人代表者が廃棄するきれいな洋服を大量に入手して選んでもらう企画は利用者にも大好評だった。また玄関軒下には毎年ツバメが巣作りに来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内では自席以外にソファ席を設けており、ホールの共有スペースには自由に使用できるリクライニングソファを設置している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたタンスや椅子など持ち込まれ自分の部屋作りをしてもらっている。入居後は面会に来られた家族との写真やホームで撮った写真等を飾りいつでも思い出してもらえるよう工夫している。	居室はベッドが備え付けの全室洋室で、夏冬の羽毛布団はシーズン毎にホーム負担で交換している。小型テレビや整理ダンス、ハンガーラック等々、馴染みや使い慣れた物を持ち込まれ、その後は運動機能に応じて家族とも相談しながら配置換えをし、安心・安全・快適環境維持に努めている。アパートを引き払ったため家財道具をそのまま運び入れている方もおれば、能登地震被災者の方やDV被害の方の受け入れの際には持ち込み品が少なかったため、有志の職員が中古タンスや古着を提供しており、またほぼ全盲の方には居室からトイレや食卓席への動線の足元に障害物がないようにし、本人も毎日小一時間ほど歩行練習をして、自由に単独移動が維持できるよう頑張っておられる。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在ほとんど目の見えない入居者がおり一人で移動できるよう座席や部屋の配慮をしている。		